

「短詩からひろがる賢治の空」 クレオールな文学としての賢治

尾内^{おない}甲太郎（詩井主催、ポエデイ副代表）

◆ 国際補助語エスペラントと花巻弁
Mateno.

Arg^enta matenonuboj / kovras / maldefinita torfkampon.

[Mi estis stranta nudapiede,]

Mi estas stranta nudapiede, / En oktobra tomato farmo /

Kio nuboj falig^anta

「ちゃんがちゃんがうまこ」八首「あざりあ 第一号」

夜明方 あぐ色の雲は ながれるす ちやがちやがうまこは うんとはせるす

◆ 俳句

? 墓ひたすら月に迫りけり

岩と松峠の上はみぞれのそら

五輪塔のあなたは大野みぞれせり

狼星をうかゞふ菊の夜更かな

狼星をうかゞふ菊のあるじかな

? 鳥の眼にあやしきものや落し角

ごみごみと降る雪ぞらの暖かさ

◆ 短歌

ひとびとは鳥のかたちによそほひてひそかに秋の丘をのぼりぬ

検温器の青びかりの水銀はてもなくのぼり行くとき目をつむれり われ

雲はいまネオ夏型にひかりして桐の花桐の花やまひ癒えたり

雨にぬれ桑つみをればエナメルの雲はてしなく北に流るゝ

いぎよひの月はつめたきくだものの匂をはなちあらはれにけり

停車場のするとき笛にとび立ちて青き夕陽にちらばれる鳥

双子座のあはきひかりはまたわれに告げて顫ひぬ 水いろのうれひ

あけがたの食堂の窓そらしろくはるかに行ける鳥のむれあり

「青空の脚」といふものふと過ぎたりかなしからずや青ぞらの脚

溺れ行く人のいかりは青黒き霧とながれて人を灼くなり

死んで俺が水の中にすんでる夢だった／河本緑石